

## 2019年12月の金融経済概況のポイント

### ■景気の基調判断

- 今月の基調判断も、2月以降の「道北地域の景気は、緩やかに持ち直している」との判断を継続しました。
- 需要項目ごとの判断にも、変更はありません。観光は回復していますが、個人消費はやや弱めの動き、また、公共投資は持ち直していますが、住宅投資は減少しています。
- 雇用面や、金融機関の貸出の面についても、前回と同じ判断です。労働需給は引き締まっており、金融面でも、預金、貸出とも前年より増加しています。
- 本日公表した道北地域の日銀短観（12月調査）は、全産業の業況判断DIが+24（9月+21、+は「良い」超過）と、前回調査比で3期連続の改善となりました（ピークは18/6月の+25）。製商品・サービス需給判断は幾分小緩みましたが（9月▲3→12月▲5、▲は供給超過）、生産・営業用設備判断（9月▲12→12月▲14、▲は不足超過）や雇用人員判断（9月▲46→12月▲54、▲は不足超過、▲54は2001年6月の公表開始以来最大の不足超過幅）は不足感が増し、財やサービスの供給体制に一段と逼迫感が強まっています。

### ■個人消費の動向

- 大型店売上高は、10月、消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動が寄与し、再び前年比減少となりました。11月は、土日祝日数が前年より1日多かったほか、気温もやや低めに推移し（旭川市の平均気温で前年比▲0.7度）、季節商品の売り上げには追い風になったと思われませんが、駆け

込み需要の反動減の影響が続き、前年比減少となりました。もっとも、マイナス幅は10月より縮小しています。

- 11月の新車登録台数は、引き続き消費税率引き上げに伴う駆け込みの反動等とみられる動きから、軽自動車、除く軽、合計とも前年を下回りました。合計の前年比マイナス幅は10月より縮小しています。但し、販売の現場からは「登録ベースでは、これでも過去の受注分の納車が進み、計数に寄与しているが、受注ベースではさらに芳しくない」との声も伺っており、引き続き注視したいと思います。

## ■観光の動向

- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、11月（速報値）は、稚内空港で前年を下回り、紋別空港で前年並みに止まりましたが、旭川、女満別空港が前年を上回り、全体でも前年を上回りました。この間、旭川空港の国際線は、11月（速報値）、前年には定期便のほかチャーター便もあった一方、本年は定期便だけとなりましたが、それでも前年を上回りました。
- ホテル・旅館宿泊客数は、11月、秋の閑散期に向かう中で、3か月振りに前年比減少となりました。旭川市内のホテル客室稼働率も、同月、ビジネス客の下支えも及ばず、前年を下回りました。
- 各地観光施設の入込みは、前年11月に地震の影響が多少残っていたという裏要因も加わり、合計（速報値）で3か月連続の前年比プラスです。個別にみると、前年11月のマイナス幅がまだ大きかった層雲峡地区、博物館網走監獄で前年を上回ったほか、前年11月には既に前年比プラス圏に浮上していた旭山動物園（速報値）で、その前年を上回っています。

## ■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、

11月は宗谷で前年比ほぼ倍増となりましたが、上川、オホーツクで前年を下回り、全体で前年をやや大きく下回りました。19/4月以降11月までの累計では、上川で前年を下回りましたが、宗谷、オホーツクでは前年を上回っており、全体でも前年を幾分上回っています。

## ■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、10月、持家や分譲が前年を上回ったものの、引き続き貸家が前年を下回ったことから、全体でも4か月連続の前年比減少となりました。

## ■住宅以外の建築物

- 建築物着工床面積（非居住用）は、10月、上川で前年を下回りましたが、オホーツクでは前年比5倍弱、宗谷では同6倍を超える著増となったことから、全体でも同2倍を超える大幅増となりました。

## ■雇用

- 雇用状況は、引き続きタイトな状況が続いています。有効求人倍率は、10月、北見で前年をやや下回ったほか、旭川で同倍率に止まりましたが、稚内、網走で前年を上回りました。新規求人数は、10月、旭川、北見で前年を上回りましたが、稚内、網走では前年を下回り、4つの職業安定所を合計した新規求人数では4か月振りに前年を下回りました。前年は9月に地震の影響から新規求人、新規求職とも手控えられ、その分、前年10月は新規求人数が前年比2桁増加となっていました。本年10月はその反動減になったものと思われます。

## ■金融動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局管下における金融機関貸出残高

は、11月も前年を上回りました。11月まで9か月連続で前年を上回っています。

## ■今後のポイント

- ▶ 道北地域の日銀短観（12月調査）の事業計画では、2019年度の全産業の売上高（前年度比▲2.4%＜前回調査比修正率+0.2%＞）、経常利益（同▲18.9%＜同+13.5%＞）、当期純利益（同+9.7%＜同+13.2%＞）が、いずれも上方修正されました。売上高や経常利益は未だ前年割れを見込んでいますが、当期純利益では前年比増加の計画に転じました。また、3月短観の当初計画から前年比大幅増であった設備投資額（同+53.7%＜同+3.4%＞）は、今回もさらに上積みされています。
- ▶ 今後、道北地域の経済を見ていく上でのポイントとしては、①公共工事について、一方で道北地域での公共工事請負金額の伸びが北海道全体より見劣りしつつある点も見据えつつ、人手不足の問題を抱える当地の建設業者が受注を続けられるかどうか、注視したいと思います。また、②日本全体の輸出・生産や企業マインド面に海外経済の減速の影響が引き続きみられる中で、当地の旺盛な設備投資意欲に水が差されないか、さらには、③消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減の影響は減衰していますが、活発とは言い難い当地の消費マインドを長く曇らせる影響が残らないか、引き続き注意して見て参ります。

以 上